

第1学年 生活科学習指導案

1 単元名 「とびだせ あそびたい ～あきと なかよし～」

2 指導観

- 本単元は、学習指導要領内容（5）「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心し、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。」及び、（6）「身の回りの自然を利用したり、身近にあるものを使ったりして遊びを工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」を受けて、身近な自然に目をむけ、秋の自然物を使って遊ぶ活動を通して、四季の変化を体全体で感じとり、みんなで遊びを楽しむことができることをねらっている。クラスの校内や〇〇〇池での自然観察で、木の葉や草花などの様子の変化にも気付き、自然に関心をもつことができるようになる。また自分が見つけた秋の物を使って製作したり遊んだりする活動で、遊びを作り出す楽しさや、夢中になって遊ぶ楽しさを味わうことができるであろう。さらに、学習指導要領の内容（8）「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわる楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」を受けて、自分自身で体験したり、活動したりして、感じたことや気付いたり分かったりしたことを、身近な人に伝え合うことをねらいとしている。友達と一緒に遊ぶことで、自然なコミュニケーションが生まれ、友達とのよりよいかかわりがもてるようになり、遊びや生活がより豊かなものになっていくことが期待される。
- 本学年の子どもたちは、1学期に、校内や校区の〇〇〇池に出かけ、草花遊びをしながら、身の回りには自然がたくさんあることや、自然のものを使っていろいろな遊びがあることに気付き、自然とかかわる活動に興味・関心をもって取り組み活動することができた。しかし、秋についてのアンケートによると、秋の自然物で遊びを作るという経験がある子どもは、全体の30%であった。秋の自然を見つけても自然を使って遊びをつくり出すことはできない子ども、秋遊びの楽しさや面白さを知らない子どもがいるということがわかった。
- 本単元の指導にあたっては、まず、であう段階では、校庭や公園で自然に触れ、季節の変化や自然を使った遊びに興味をもつことをねらう。そこで、どんぐりを材料とし、おもちゃを作る活動を設定する。その際、自然体験が乏しい子どもも友達と同じおもちゃを作る共通体験を取り入れることで、秋遊びに興味をもつことができるようにする。次に、ひたる段階では、どんぐり以外の秋のたからものを使っていろいろな遊びをする。友達と一緒にいろいろな遊びをしたいという思いや願いから、「まつり」形式での活動を行う。この形式で活動を行うことで、遊びが広がったり、深まったり、友達と一緒に活動をする楽しさを味わったりすることができ、わくわく感が高まっていくと考える。その際、同質グループでグループを作ったり、材料コーナーや道具コーナーを設けたりすることで、友達同士の活発な交流や活動をくり返し、活動にひたることができるようになる。最後に、広げる段階では、「あきまつり」をして、作ったおもちゃを交流することで友達と工夫して遊ぶ楽しさに気付き、自分自身の成長や人とかかわるよさに気付くことをねらう。隣のクラスの友達との交流を取り入れ、自分の遊びを発表したり、今までの活動をふり返ったりしながら、「はじめは、つくれなかったけど、今はおもちゃをつくれるようになった」などの自分自身の成長に気付くことができるようにする。

3 単元目標

- 木の葉や木の実などを使って、自然遊びに興味・関心をもち、遊びを楽しむことができる。
- 木の葉や木の実を使って、工夫して遊びを作ったり、友達と一緒に遊んだりすることができる。
- 木の葉や木の実を使って遊ぶことで、季節の変化に気付き、みんなで遊ぶ楽しさや自分自身の成長に気付くことができる。

4 単元計画（全18時間）

段階	配時	学習活動と内容	指導及び支援	評価規準
であう	2 4 2 0組 2/2 本時	1 校庭や〇〇〇〇池に行き、秋みつけをする。 ○ 春夏と秋の違いに気付き、秋に関心をもつこと 2 公園へ秋みつけに行く。 ○ 秋のたからものを探すこと 3 木の実で、作って遊ぶ。 ○ 共通の遊びを体験することで、自然遊びに興味をもつこと	※ 春にした草花あそびを想起させ、違いに気付かせる。 ※ たくさんの発言を促し、季節の変化への関心を高め、秋みつけをしに公園へ行きたいという思いが生まれるようにする。 ※ 共通のものを作る中で、道具の安全な使い方も教える。	関 季節の変化に関心を持ち、秋遊びをしたいという発言をしている。 考 木の葉や木の実を使って、遊びを考えている。
ひたる	2 1 2 2 0組 1/2 本時	4 秋のたからもので、作って遊ぶ。 ○ 秋のたからものを使って、いろいろな遊びすること 5 あきまつりの計画を立てる。 ○ お気に入りの遊びを決めて、あきまつりの見通しをもつこと 6 あきまつりの準備をする。 ○ あきまつりで使うものを作ること 7 クラスであきまつりをする。 ○ 遊びが広がったり、深まったりすること ○ 友達と一緒に活動をする楽しさを味わったりすること	※ やりたい遊びが決まらない子どもは、教師のモデルの遊びを参考にするように助言する。 ※ 絵や文で簡単な計画を立てることができるようなカードを準備する。 ※ 活動にひたることができるように、材料コーナー、道具コーナー、ヒントコーナーを準備し、活動の場の工夫をする。 ※ 交流が生まれやすいような場の工夫をする。	考 あきまつりの簡単な見通しをもつことができる。 関 あきあそびにひたっている。 考 あきまつりでの発見を自分なりの方法で、表現することができる。
ひろげる	2 1	6 となりのクラスとあきまつりを楽しむ。 ○ 友達に教えたり教えてもらったりしてみんなで遊ぶ楽しさを実感すること ○ 自然の面白さや不思議さを味わい、季節の変化に気付くこと 7 秋の活動をふり返る。 ○ 単元をふり返り、自分自身の成長に気付くこと	※ 自分たちで遊ぶだけでなく、となりのクラスの人と一緒に遊ぶことで、たくさんの人とふれあう楽しさを感じるようにする。 ※ これまでの活動の様子の写真やふり返りカードなどを用意し、ふり返りをさせる。	気 友達と工夫して遊ぶ楽しさに気付き、自分自身の成長や人とかかわるよさについて発言している。

第1学年〇組 生活科学習指導案

指導者 ○○ ○○

5 本 時 8/18

(1) 本時目標

- ドングリを使ったおもちゃ作りに関心をもち、進んで活動をしようとする。
- ドングリのおもちゃを作って遊ぶ中でさらに楽しく遊べるように工夫している。

(2) 本時の仮説

細目1 展開の場面でドングリを使っておもちゃを作る活動において	
期待する姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ ドングリを使ったおもちゃ作りや遊びにひたっている。 ○ おもちゃの作り方について、友達に質問したり教えたりして、さらに楽しい遊びになるように工夫している。
具体的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな種類のドングリや長さの違う竹串、楊枝、ひもなどを十分用意し、子どもが工夫したり試したり作りかえたりできるようにしておく。 ○ お試しコーナーを設け、作ったおもちゃで遊べるようにしておく。 ○ 活動が停滞している子には、友達のおもちゃを紹介したり、作り方を教えてもらうように声をかけたりする。 ○ 活動中に広げたい発言や行動や工夫があるときは、全体に投げかける。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ おもちゃ作りをしているときの子どもの表情、発言、つぶやき、教師の問い返しへの答えから

細目2 終末の場面でおもちゃ作りをふり返り、気付きを交流している活動において	
期待する姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が作ったおもちゃを紹介したり、おもちゃ作りで工夫したことや気付いたことを発表したりしている。 ○ 自分や友だちが作ったおもちゃのよさに気付いている。
具体的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふり返りカードを書かせて本時の活動をふり返らせる。 ○ 作ったおもちゃを実演させながら紹介させ、子どもが発表した工夫や気付きを賞賛する。 ○ 友達と似ている気付きはないか問いかけて、気付きを広げるようにする。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の作ったおもちゃを紹介したり、おもちゃ作りで気付いたことを発表したりしている姿から ○ ふり返りカードの内容から

(3) 準備

教師： 数種類のドングリ 数種類の竹串 爪楊枝 ひも 安全ピン 油性ペン 不透明ペン 木の実穴あけき 穴あけき用の針(3種類) グルーガン ボンド 鏡 ペットボトル(やじるべえの台) おもちゃの見本 ふり返りカード カメラ

子ども： 前時までに作ったおもちゃ 自分がおもちゃ作りに使う物

(4) 展開

学習活動と内容	指導及び支援						
<p>1 本時学習のめあてについて話し合う。</p> <div data-bbox="193 342 715 488" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> めあて ドングリをつかって おもちゃをつくろう </div> <p>○ 本時活動の見通しと意欲をもつこと</p> <p>2 ドングリを使って、おもちゃを作る。</p> <p>○ 友達と比べたり教え合ったりしながらおもちゃ作りを工夫すること</p> <table border="1" data-bbox="193 801 743 947" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">ドングリごま</td> <td style="width: 50%;">やじろべえ</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="352 947 587 1043" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">おためし</td> <td style="width: 50%;">コーナー</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="193 1043 743 1189" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">どうぶつ</td> <td style="width: 50%;">アクセサリ</td> </tr> </table> <div data-bbox="193 1234 743 1715" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>予想される姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こまの回すところが短い方がよく回るよ。 ・回すところが長いと回り方が面白いよ。 ・竹串の数を増やしてみるとどうなるかな。 ・竹串の長さが同じだとうまくできる。 ・ドングリをたくさんつなげてみよう。 ・ドングリにもようを付けたらきれいだよ。 </div> <p>3 本時学習をふり返り、次時の学習について知る。</p> <p>○ 自分が作ったおもちゃの工夫や気付きを発表すること</p> <p>○ 次時への意欲をもつこと</p>	ドングリごま	やじろべえ	おためし	コーナー	どうぶつ	アクセサリ	<p>※ 前時に作ったおもちゃを用意しておく。</p> <p>※ 前時に作ったおもちゃを何人かに発表させる。</p> <p>※ 何度も試したり工夫したりしやすいように、いろいろな種類のドングリ・竹串・爪楊枝・ひもなどを用意しておく。</p> <p>※ 友達と比べたり教え合ったりできるようにグループで活動させる。</p> <p>※ お試しコーナーを設けて、作ったおもちゃで遊んだり友達と比べたりできるようにしておく。</p> <p>※ ドングリ穴あけきを使用する時には、机の真ん中に置くなど安全面の指導をする。</p> <p>※ 活動中に広げたい発言や行動や工夫があるときは全体に投げかける。</p> <p>※ 活動が停滞している子には、友達のおもちゃを紹介したり、作り方を教えてもらったりするように声をかける。</p> <p>※ カードを書かせて活動をふり返らせる。</p> <p>※ 作ったおもちゃを実演させながら紹介させ、子どもが発表した工夫や気付きを賞賛する。</p> <p>※ 同じような気付きをしていないか問いかけて、見つけた気付きを広げていく。</p> <p>※ 木の葉や木の実で作ったおもちゃや飾りの見本を見せ、次時への意欲をもたせる。</p>
ドングリごま	やじろべえ						
おためし	コーナー						
どうぶつ	アクセサリ						

第1学年〇組 生活科学習指導案

指導者 ○○ ○○

5 本 時 14/18

(1) 本時目標

- 自分の遊びを紹介したり、一緒に遊んだりすることで進んで友達と関わろうとしている。
- 自分で作ったものをクラスの友達に紹介したり、一緒に遊んだりすることで、みんなで遊ぶ楽しさに気付くことができる。

(2) 本時の仮説

細目1	展開の場面で自分の遊びを紹介している活動において
期待する姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 秋のたからものを使ってつくった遊びを友達に紹介している。 ○ 友達の遊びについて、質問したり、一緒に遊んだりして楽しんでいる。
具体的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のやりたい活動にひたり、友達との交流もできる「まつり形式」での活動を位置付ける。 ○ 子どもの思いや願いを実現するために、価値付けたり、意味付けたり、方向付けたりするといった教師の適切な問い返しや支援を行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流をしているときの、子どもの表情、発言、つぶやき、から ○ 教師の問い返しへの答えから

細目2	終末の場面であきまつりをふり返り、気付きを交流している活動において
期待する姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の学習をふり返り、作ったものを紹介したり友達と一緒に遊んだりしたことで気付いたことを発表し、みんなで遊ぶ楽しさを味わっている。 ○ 今日の活動をふり返り、次時のめあてをもつことができる。
具体的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもが直接体験を通して、その子なりに驚いたり、納得したりして得られたことを、子どもとの対話や発言、表情、つぶやき、行動、作品、カードなどから、共感的に受けとめて言葉かけを行う。 ○ ふり返りカードを書かせたり、自分ができるようになったことを発表させたりすることで、今日の活動をふり返り、次時のめあてを明らかにさせる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の学習をふり返り、気付いたことを発表したりする発言内容から ○ ふり返りカードの記述内容や次時のめあての内容から

(3) 準備

教師： 活動に必要な用具（ボンド タコ糸 紙コップ プラスチックコップ セロテープ ストロー 楊枝 竹串 カラーペン はさみ 八つ切り画用紙 パス 木の実穴あけ器 グルーガン） ふり返りカード 今までの活動の掲示物

子ども： 秋の材料（ドングリ マツカサ クリ 落ち葉 ススキなど） 自分のお気に入りの木の葉や木の実のおもちゃ・飾り 筆記用具

9 展開

主な学習活動と内容	指導及び支援
<p>1 今までの活動をふり返りめあてをつかむ。</p> <p>○ 本時のめあてをつかみ意欲をもつこと</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて つくったものを おともだちに しょうかいしたり、あそんだりしよう。</p> </div> <p>2 あきまつりを行う。</p> <p>(1) お気に入りの遊びを友達に紹介したり、友達と一緒に遊んだりする。</p> <p>○ 遊びが広がったり、深まったり、友達と一緒に活動をする楽しさを味わったりすること</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>おもちゃ屋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりごま ・やじるべえ ・けんだま </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>めいる屋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐり迷路 ・まつぼっくり迷路 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>ようふく屋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクセサリー ・葉っぱのお面 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>がっき屋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マラカス </div> </div> <p>3 本時学習をふり返り、思ったことや次の時間にしたいこと等を発表する。</p> <p>○ 気づきをまとめること</p> <p>○ 本時をふり返り、次時のめあてをもつこと</p>	<p>※ 今までの活動をふり返ることができるような掲示物を準備する。</p> <p>※ 前時までの写真やふり返りカードをもとに、本時の活動を確認させる。</p> <p>※ 前半と後半に分けて、交流をさせる。</p> <p>※ 子どもとの対話や発言、表情、つぶやき、行動、作品、カードなどを、共感的に受けとめて適切な言葉かけをする。</p> <p>※ 活動中に広げたい発言や行動がある時は、全体に投げかける。</p> <p>※ 新たな気づきを生み、活動を連続させることができるように、体験・交流・表現活動を繰り返し行う。</p> <p>※ 友達と仲良く遊んでいる子どもや尋ねたり教えたりしている子ども、進んで友達と関わろうとしている子どもを賞賛する。</p> <p>※ ふり返りカードを書かせ、本時のふり返りと次時のめあてをもたせる。</p> <p>※ 全体に広げたい気づきを取り上げ、みんなの前で発表させたり、価値付けたりする。</p>